Japan International Cooperation Agency

長崎大学国際連携研究戦略本部セミナー

*アメリカの対外援助の変遷に見る*

# 国際開発援助の新たな潮流

2010年10月5日

JICA地球ひろば副所長
山本愛一郎
Yamamoto.Aiichiro@jica.go.jp

JICA Global Plaza

## Ⅰ.We live in the 21st century.

- "Don't try to fix 21st century problems with 20th century tools." (Barrack Obama)

21世紀の問題を20世紀の道具で修理しようとしても駄目だ。(オバマ米大統領)

## 20世紀の開発問題 v.s. 21世紀の開発問題

- 20世紀の開発問題
  冷戦構造 南北問題 国別対応 格差是正 貧困削減
  *From charity to development*
- 21世紀の開発問題
  急速なグローバル化の中で、紛争、難民、感染症、気候変動など国を超えた国際社会全体としてのアプローチが必要
  *From development to survival*

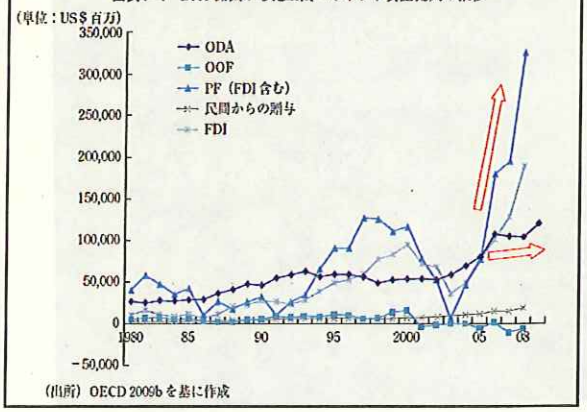
## グローバル化＝人、モノ、カネ、情報が国境を越えて瞬時に動く

| | 良い面 | 悪い面 |
|---|---|---|
| ヒト | 技能労働者の確保が容易 | 難民、国内避難民、不法移民 |
| モノ | 良質のモノが安く買える | 麻薬、不法製品、感染症 |
| カネ | 資金調達が容易 | 金融不安、金融危機 |
| 情報 | 経済利益、リスク回避、民主化 | デジタルデバイド |

## ODAをめぐる国際情勢

- ODAのグラント化、スケールアップ
  *～GDP0·7%目標（2002年モントレー合意）*
- ODAのプール化、マルチ化
  *～欧州ドナーが財政支援に傾倒*
- ODAのプレゼンスの低下
  *～民間、NGO, 基金、新興ドナー、南南協力の興隆*

図表1-1 DAC諸国から途上国へのネット資金流入の推移




(出所) OECD 2009bを基に作成

## アメリカの援助の3つの特徴

1.定義の違い

*～欧州、日本はODAを使い、アメリカは、広義の「Foreign Assistance」(対外援助)を使う。*

2. 国益重視

*～9. 11以降は、国益＝国家安全保障*

3. ミッション性

～援助の目的は、貧困削減より民主主義、自由を広めること

## アメリカの「対外援助」の概念

- 開発、麻薬対策、核拡散防止、平和維持、軍事協力、民主主義の伝播など幅広い概念
- イスラエル、ロシア、東欧などの高所得国も対象

## ODAの定義

- (1)開発途上国の経済社会開発が目的
- (2)政府または公的機関が実施
- (3)グラントエレメントが25%以上
- (4) 上記(1)～(3)をすべて満たすこと

## 3Dによる国益追求

- 前ブッシュ政権

*防衛(Defense) > 開発(Development) > 外交(Diplomacy) = 国家安全保障*

- オバマ政権

*外交(Diplomacy) = 開発(Development) > 防衛(Defense) = 国家安全保障 ＋ 国際安全保障*

## オバマ大統領とクリントン国務長官

○オバマ大統領就任演説(2009年1月20日)

「貧しい国々の人たちに我々は誓う、あなた方の畑を栄えさせ清潔な水を流れさせるため、腹を空かせた身体に食べ物を与え、飢えた心に滋養をもたらすために、あなた方と共に努力する。」

○クリントン国務長官(2009年1月23日)

「米国の安全保障を推進する上で、開発(development)が、国防(defense)や外交(diplomacy)と並ぶ対等のパートナーであると信ずる。」

## オバマ政権の国際保健政策

・2010年5月、オバマ大統領は2009年度から2014年度までの6年で合計630億ドルの国際保健イニシアティブを発表。

・前政権からの「大統領エイズ救済緊急計画(PEPFAR)」、「大統領マラリアイニシアティブ(PMI)」を継承しつつ、新たに母子保健、保健システム強化に取り組んでいくことを表明。

・2010年度は国際保健に86億ドルの予算を要求。(前年度比4. 6億ドル増)

## 日英米ODA比較表

成蹊センター副所長　山本愛一郎

| | 日　本 | 英　国 | 米　国 |
|---|---|---|---|
| 理念・目的 | 国際社会の平和と繁栄に貢献し、これを通じてわが国の安全と繁栄の確保に資すること。<br>（新政府開発協力大綱） | 貧困撲滅に特化<br>（1997年ODA白書：Eliminating World Poverty、2000年「国際開発白書」） | アメリカの安全保障及び繁栄のためと定のため<br>（2004－2009開発者・USAID戦略計画） |
| 世論動向 | 現在の貢献でよい　48.2%<br>積極的に増やす　26.8%<br>（昭和53年　44.1%）<br>減らすべき　17.6%<br>（昭和53年　4.9%）<br>（平成21年度内閣府外交に関する世論調査） | 途上国の貧困に関心　90%<br>英国国民に重要な問題　71%<br>NGO貧困撲滅に貢献　61%<br>（2001年英国調査） | ODAのGDP比0.7%目標<br>賛成　63%<br>ただし、他の国も貢献した場合<br>反対　29%<br>（2005年民間調査機関） |
| 実施体制 | 外務省、財務省など13省庁<br>JICA | DFID（独立した省、開発がヘッドが中心） | 国務省、財務省、農務省、商務省などを省庁<br>USAID、MCC |
| 金　額<br>GNI比<br>順　位<br>（2009年実績） | 9,469百万ドル<br>0.18<br>5位<br>（2000年比70%） | 11,505百万ドル<br>0.52<br>4位<br>（1998年比250%） | 28,065百万ドル<br>0.20<br>1位<br>（2001年比231%） |
| 2国間援助の地域配分上位受取10カ国（2007-2008年平均） | サブサハラ　33.7%<br>南・中央アジア　18.4%<br>アジア・太平洋　36.0%<br>中東・北アフリカ　14.6%<br>南米・カリブ　8.4%<br>欧州　3.1%<br><br>イラク、中国、インドネシア、インド、ベトナム、フィリピン、バングラデシュ、タンザニア、トルコ、スリランカ | サブサハラ　54.4%<br>南・中央アジア　22.1%<br>アジア・太平洋　7.5%<br>中東・北アフリカ　6.4%<br>南米・カリブ　1.7%<br>欧州　0.8%<br><br>インド、イラク、アフガニスタン、ナイジェリア、エチオピア、バングラデシュ、タンザニア、パキスタン、スーダン、中国 | サブサハラ　33.7%<br>南・中央アジア　16.0%<br>アジア・太平洋　4.5%<br>中東・北アフリカ　22.8%<br>南米・カリブ　8.2%<br>欧州　1.5%<br><br>イラク、アフガニスタン、スーダン、エジプト、エチオピア、コロンビア、パキスタン、ケニア、パレスチナ、ウガンダ |
| 援助モダリティー | プロジェクトが主体<br>（GDベース） | 財政支援化（50%目標） | プロジェクトが主体<br>（本国間、対NGO一委託） |
| タイイングステータス（2007年） | 95.1%<br>アンタイド | 100%<br>アンタイド | 68.5%<br>アンタイド |

## 21世紀のODAの役割

- 欧州型　＝広義の国益、国際益
  - ～国際公共財の創出、経済成長支援、民間投資の呼び水
- アメリカ型　＝戦略的活用
  - ～安全保障、テロ対策等
- 日本型　＝　欧州　＋　アメリカ　？？？

JICA Japan International Cooperation Agency

ありがとうございました。

JICA Global Plaza

JICA地球ひろば副所長
山本愛一郎
Yamamoto.Aiichiro@jica.go.jp